

Dr's message

黒澤利郎 循環器科部長にきく

「血圧手帳」で日常の管理を



「循環器科とは、どこを対象にしているのでしょうか?」  
黒澤 心臓、血圧、血圧、大血管(動脈)、血栓などで、心臓外科とちがってこちらは薬物による治療とカテーテル治療です。

「進歩の目ざましい分野ですね。」  
黒澤 この二十年ですべてが変わったといっているくらいです。臨床試験をして、検証をしてクスリを変えたいというのは循環器が先がけでした。

「クスリも日々新しくなっていると感じます。」  
黒澤 欧米型の病気なので、向うが進んでいて日本が遅れています。これからどんどん出てくるでしょうね。

「食生活のこともよくわかりますが。」  
黒澤 沖縄がモデルになります。かつて長寿県だったのがいまはランクが下がっています。米軍の生活になじんで食生活が欧米化し、若い人ほど(循環器の)病気がふえています。

「女性はがんばっていたの。」  
黒澤 女性も同じ傾向です。都道府県別では長野や福井などが長寿県です。

「心筋梗塞は怖い病気でしたが、いまは回復して元気という人もいます。」  
黒澤 二十数年前は心筋梗塞で入院されてもお亡くなりになる方も多かったです。いまは急性期に積極的な治療を行っている病院にきていただければ回復できる病気になるりました。急性期の初療で予後も大きく変わります。

「カテーテルの導入などが効果を上げていますか?」  
黒澤 カテーテルは当院の前総院長の山口洋先生が第一人者でした。器具はどんどん進化していますが、もろろん境界はあつて、個々の患者様に合わせてカテーテル治療か手術治療かを選択することが重要です。

「天皇陛下はバイパス手術をされましたが。」  
黒澤 より安全性の高い方法がバイパスだったのでは。心臓は1%でも安全なら、そちらの方を採用します。

「外科医との連携は要になりますね。」  
黒澤 安心してお願いできる外科医と組めるかどうか。私たちの治療と手術と、どっちが安全か、いつも天秤にかけていますから、外科医の存在は大きい。幸いこの病院では信頼できる関係にあります。

「心臓病は増えているのでしょうか、予防はできますか。」  
黒澤 食生活を含めた生活習慣の管理が重要です。この病気の遠因は糖尿病や高血圧などの生活習慣病や喫煙です。血圧のコントロールは家庭でもできます。むしろ日常的な生活の中で測る方が正常値が出やすい。起床一時間以内、朝食の前に「家庭血圧」を測ることが管理する上で重要で

「最近増えている、あるいは気になっている症状はありますか。」  
黒澤 足の血管が詰まる病気が、閉塞性動脈硬化症というのがあります。足に血がまわらない。進行すると壊疽になり、切断まで行きかねません。いままで目立たなかったのですが、増えてきました。

「ステントが頻繁に使われるようになって、これも治療が楽になりましたね。」  
黒澤 平成6年〜7年ごろから出てきました。現在は再狭窄を抑制する薬の塗布してあるものが主流ですが、ステントそのものが溶けてなくなるものも治療中です。カテーテル治療の最近の話題は経皮的動脈弁移植術です。日本でも治療をやっています。小さくした弁を置いていく方法です。弁をとりかえるのと同じ成果が上がっているとききました。1〜2年で保険診療に採用されるのではないでしょう。

「先生は医師を志したきっかけがありましたか。」  
黒澤 両親が医師でしたから、高校のときは反発もしたのですが、結局親と同じ職業につきました。

「息抜きはできていますか。」  
黒澤 ないです(笑)。6年間、北里大学で三次救急を担当して、四六時中待機でしたから。お酒も飲む機会が失せました(笑)。

「なぜでしょう?それと予防策は。」  
黒澤 生活習慣病の増加によると思います。予防は他の動脈硬化に起因する疾患と一緒に、生活習慣の是正が重要です。



町田市民病院  
くろさわ としろう  
黒澤利郎 循環器科部長  
Profile  
北里大学医学部卒業 平成16年から町田市民病院勤務。平成17年4月から循環器科部長に就任。

**四季折々**  
〜しきおりおり〜

▼市民病院のレストラン、喫茶は9階にあつて眺望が自慢である。「あの山は?」「あの建物は何?」と興味のあるお客さんのために、9階の3方向の展望を撮った写真を飾っている▼喫茶からはうつつらと「東京スカイツリー」も見える。新宿副都心の方向である。ラウンジにある1枚とレストランにある2枚の写真は木曾住宅や境川住宅の方向を写している。もう1枚は丹沢の方向で建設中の町田市新庁舎も見える▼3方向が遠望できるが、感ずるのは住宅団地の多さ。旧公園、公社、都営など大団地が横に続いている。町田は団地の町、と納得できる▼建物の光景は昔と変っていないだろう。しかし、内容はちがっている。お年寄りの比率が増えている。かつて若い夫婦の憧れだった2DK。歳月が住人のあり様を変えてきたが、9階からはすべてが平穏に映る (四方 洋)



### 第9回町田シンポジウムを開催しました。

心手神

町田シンポジウム院内研究発表会は、医療従事者が日頃の研究成果を発表し、互いに情報共有することにより、より良い医療を提供することを目的として開催しています。

今年のテーマは「**神手心**」。「卓越した技術とまごころの医療を目指す」という市民病院にふさわしいものとなりました。

当日は126名の職員が参加し、21名の発表者が、力こもったプレゼンテーションを行い、そのうち優秀者3名が表彰されました。



2012年1月28日に当院が開催した「2011年度 第2回市民公開講座」の一部を抜粋したものです。

## こどもの病気



小児科 山口 克彦 診療部長

### 発熱

発熱で脳障害は起きるか？ 脳炎や髄膜炎、また熱射病などで熱がこもる（内臓温度が41℃以上）と脳障害がおこりえます。でも高熱が直接脳障害を起こすものではありません。ウイルス、細菌などは発熱物質で、その侵入により体内で様々な反応がおこり体温が上昇します。発熱はウイルス、細菌の活動を弱め、免疫を高める生体の防御反応です。熱が出た時はあわてず、熱以外の症状（全身状態、機嫌、食欲など）がほぼ良好であれば薄着にして首、わき、股などを冷やし水分補給で経過観察してよいでしょう。けいれん、意識障害、ぐったり、顔色不良があればはやめに医療機関を受診しましょう。

### 発熱の効果

- ・ ウイルス(細菌)は熱に弱い
- ・ 発熱することで免疫を高める
- ・ 発熱は病原(細菌やウイルス)の進入に対する防御反応

図1

### けいれん

小児のけいれんの主なものは熱性けいれんとてんかんです。けいれんがおきた時はあわてず落ち着いて安全な場所に移しましょう。分泌物や吐物の誤嚥窒息を防ぐため図2の様な姿勢にしましょう。舌をかむのはけいれんの初期のみなので口の中にモノを入れる必要はありません。初めてのけいれんやけいれんが10分以上続く時、けい



けいれん時の対応

図2

### 嘔吐・腹痛

顔色が良く、機嫌のよい時は様子観察でよいでしょう。嘔吐を繰り返す、下痢や腹痛を伴うときは病気の可能性が高いです。吐き気が強い時

れんが治まっても意識がはっきりしない時は医療機関を受診して下さい。2回目以後のけいれんで原因がはっきりしていない、持続時間が5分以内でけいれん後意識がはっきりしている時は様子観察でよいでしょう。

### 喘息発作

喘息発作は呼吸生活の状態です。発作、中発作、大発作に分類されます。喘息発作が起きた時、図3の様強い喘息発作のサインがある時は医療機関を受診してください。サインのない時は環境を変えたり、医師の指示通りの吸入や頓服の内服をしてください。症状が残る時は3〜6時間で繰り返し、改善しなければ医療機関を受診してください。症状が改善しても週に何回も発作がある時は昼間にしっかりと医療機関を受診してください。喘息とは喘息発作が起きやすい状態で発作がない治療ガイドライン2012では5年以上無治療無症状で喘息は治療としています。

### 病院を受診したほうがよい時

- ・ 強い喘息発作のサインがあるとき

- 唇やつめの色が白っぽい(青～紫色)
- 息を吸うときに小鼻が開く
- 息を吸うときに胸がペコペコこむ
- 脈がとても早い
- 話すのが苦しい
- 歩けない
- 横になれない、眠れない
- ボーとしている(意識がはっきりしない)
- 過度に興奮する、暴れる

図3

いつでも相談できる「**かかりつけ医**」をつくりましょう。病院へ行った方がいいか・救急車を呼んだ方がいいか迷ったら**#7119**



# えて 看護師さん

Vol.13



## 透析室の紹介

皆さまは透析療法をご存知でしょうか。

今回は、透析室についてご紹介いたします。

日本で透析を受ける患者さんは年々増加し、今や29万人を超えています。また、透析に至る可能性のある慢性腎臓病の患者さんは1300万人と推定されています。これは成人の8人に1人にあたります。慢性腎臓病が進行して腎不全になると体内の老廃物を排出することができなくなるため、透析を導入することになります。

当院の透析室は、ベッド数10床と規模は小さいながら、血液透析をはじめ、顆粒球除去療法、白血球除去療法、血漿交換、エンドトキシン吸着など多様な治療を行っています。様々な疾患に対して質の高い医療が提供できるよう、医師・看護師・臨床工学技士・薬剤師・栄養士など多職種の職員がチームで活動しています。また、その活動は透析室内にとどまらず、必要であれば外来や病棟へ伺うこともあります。透析を導入した患者さんは、



安全な透析治療のため、日常生活において継続的な食事療法が必要になります。このため、検査データの解釈や体調管理についての理解も深めていただいています。その際には、患者さんやご家族にこれまでの生活習慣をお聞きし、できる限り取り入れやすい方法を一緒に考える時間を持つようになっています。

現在、透析室で力をいれていることは、透析患者さんとご家族の生活の質の維持を目指すためのサポート体制づくりです。透析という週3回、3〜4時間の治療

そのものが長期間にわたり生活の一部となることも多く、治療が生活全般にもたらす影響は少なくありません。患者さんの身体的苦痛や心理的軽重の緩和、精神的な安定をめざしたケア、社会的支援環境を整えることなど、きめ細やかな配慮ができるよう職員のミーティングを積極的に行っています。こうした取り組みが実り、海外への家族旅行を実現した患者さんもいらっしゃいます。透析室は、患者さんとご家族の生活をサポートするために、チーム医療とスタッフ間の連携を大切にしています。



### 一病院玄関前で

## お花のお出迎え

園芸ボランティアの皆さんのご協力により、殺風景になりがちな病院の玄関に鉢植え花壇を置かせていただくことになりました。

これまでも病院の敷地周りの花壇(ふれあい花壇)や緩和ケア病棟の屋上庭園の手入れをボランティアの皆さんにお願いしてきたところです。

病院の玄関は、患者さんやご家族の方をはじめ多くの方が出入りされます。行き交う人たちの思いは、喜び、悲しみ、不安など様々だと思います。言葉では埋められない思いを、季節のお花によって少しでも感じたり、癒して頂ければとの思いが込められています。

「玄関の花壇が病院の温かな雰囲気につながるれば」と言ってくださるお花の大好きな園芸ボランティアの皆さんです。



園芸ボランティア



# 「医療安全の推進に取り組みます」

vol.13  
Essay  
エッセイ

2011年4月に、町田市は保健所政令市になり、町田保健所が東京都から町田市に移管されました。都の時代には事業者への許認可や指導が主たる保健所業務でしたが、市への移管後は、これまで以上に市民の皆さんへの情報提供の重要性を感じています。できるだけ多くの市民の皆さんに、保健所を身近に感じて利用していただきたいと思います。

現在、保健所政令市として取り組む課題の一つが、「医療安全支援センター」の立ち上げです。1999年1月に横浜市立大病院での医療事故がきっかけとなり、医療への不信が拡大して、医療機関における安全管理体制が社会問題となりました。これを受けて国は、2006年に医療法を改正して、さまざまな医療安全対策の取り組みを自治体や医療機関に義務付けました。「医療安全支援センター」もその一つで、「都道府県および保健所を設置する市・特別区」に対して設置の努力義務が課せられました。

支援センターの役割は、患者である市民の皆さんと医療者との良好な関係を築くことによって、安心・安全の医療を確保することです。具体的な機能としては、医療安全推進協議会の設置、患者さんからの相談窓口業務や、市内の医療機関に対する医療安全情報の提供や研修の実施などがあります。患者さんからの相談などに基づいて支援センターが行う助言に対しては、医療機関の管理者は適切な措置を講じるよう努めなければなりません。

支援センターは常に中立の立場でご相談に応じ、患者さんと医療機関との間に信頼関係が築かれることを目的とします。出来るだけ早期に相談窓口を開始し、段階的に支援センター機能の拡大を図るほか、運営には、市民の皆さんや市内の医療機関にもご協力をいただいて、町田市における安心・安全な医療の推進に努めていきます。



町田市保健所長

大井 洋さん

## Profile

大井 洋(おおい ひろし)

1993年秋田大学大学院を修了後に東京都へ入職。特別区と多摩地域の保健所および東京都庁での勤務を経て、2010年東京都町田保健所長、2011年4月より町田市保健所長。

## 町田市病院事業管理者が交代しました

### 退任のご挨拶

四方 洋

3月31日をもって町田市病院事業管理者を退任しました。3年間、みなさんに支えていただきました。おかげさまで病院経営は順調でした。収支は改善され、安定度を増してきました。医療の内容についても、日々改善されてきたと思います。地域からの信頼度は確実に高まっていると感じていました。

昨年3・11の大震災では当院も大きく揺れ、停電しました。2件の手術中でありましたが、自家発電に切り換えて無事終了しました。患者さんに事故がなかったのはなによりでした。このときの現場スタッフの懸命の努力は私にとって忘れない光景になりました。振り返って、病院にとって「無事」という言葉の重みを感じます。それを貫くことができたことは喜ばしい限りでした。

もちろん不備な点はまだまだ目につきます。例えば待ち時間、直接、苦情をいただきました。できる限りの手を打ったつもりではありますが、依然として今後の課題です。どうか新しい体制に期待して下さい。町田市市民病院が「日本一」といわれる日を夢みて、みなさんに「ありがとう」と申し上げます。

### 就任のご挨拶

近藤 直弥

四方洋病院事業管理者の後任として、4月から町田市病院事業管理者に就任し、病院長を兼務することとなりました。町田市市民病院が二層市民の皆様から信頼されるように努めてまいりますので、よろしくご挨拶いたします。

## 基本理念と患者様の権利

### ●基本理念

#### 患者さま中心の医療

患者さまの人権を尊重し、「患者さま中心の医療」ならびに「患者さまと共に創り出す医療」を目指します。

#### 安全で良質な医療

医療従事者によるチーム医療を展開し、健全経営に努め、医の倫理を守り、安全で良質な、心のこもった医療を遂行します。

#### 地域社会に貢献する医療

公的な基幹病院としての使命を果たし、医療連携を推進し、教育・研修活動と市民の健康増進の啓発に努めます。

### ●患者様の権利

町田市市民病院は、すべての患者様の生命と健康を守るため、次に掲げる権利を尊重し、患者様との信頼関係に基づき、協働して医療に取り組んでまいります。

1. 基本的人権が尊重され、良質で適切かつ安全な医療を公平に受ける権利があります。
2. 病気、検査、治療、看護、見直しなどについて、わかりやすい言葉で、納得できるまで説明と情報提供を受ける権利があります。
3. 十分な説明と情報を受け、治療方法などを選び、または、拒否する権利があります。
4. 個人の情報が厳密に保護され、自分のプライバシーが尊重される権利があります。
5. 自分が受けている治療や診断について、他の医師の意見を求める権利があります。